

NP-RDR001

取扱説明書

車への取り付けは、必ずこの取扱説明書の「安全上のご注意」に従って正しく行ってください。指定以外の取り付け方法や指定以外の部品を使用すると、事故やけがの原因となる場合があります。この場合は、弊社では一切の責任を負いかねます。

販売店様へ
取り付け作業が完了しましたら、この取扱説明書はお客様へお渡しください。

免責事項について
お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、弊社は一切の責任を負いません。

お客様サポートサイト

■NP-001 サポート情報

<https://jpn.pioneer/ja/support/np/np-001/>

■商品についてよくあるお問い合わせ(FAQ)

https://jpn.pioneer/ja/support/faq_np/np-001/

NPサポートセンター

■電話 **0120-599-120** (無料)

※正確なご相談対応のために折り返しお電話させていただく場合がございますので発信者番号の通知にご協力をお願いします。
※受付時間は下記URLよりご確認ください。

<https://jpn.pioneer/ja/support/np/contact/>

令和5年7月現在 記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

安全上のご注意 (安全にお使いいただくために必ずお守りください)

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを説明しています。

■表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

| | | |
|--|-----------|---|
| | 警告 | 「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」です。 |
| | 注意 | 「人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」です。 |

■お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

| | | | |
|--|-------------------------|--|-------------------|
| | 注意(警告を含む)しなければならない内容です。 | | 必ず行っていただく強制の内容です。 |
| | 禁止(やってはいけないこと)の内容です。 | | |

DR-v3.1****

接続・取り付け

警告

エアバッグの動作を妨げる場所には、取り付けや配線をしない

エアバッグが動作しなかったり、動作したエアバッグで製品や部品が飛ばされ死亡事故の原因になります。車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。

取り付けやアース配線に、保安部品(ステアリング、ブレーキ、タンクなど)のボルトやナットを使用しない

制御不能や発火、交通事故の原因となります。視界や運転操作を妨げる場所、同乗者に危険を及ぼす場所には取り付けない

交通事故やケガの原因となります。

電源コードの被覆を切って、ほかの機器の電源を取らない

電源コードの電流容量がオーバーすると、火災や感電、故障の原因となります。

本機は、保安基準に適合しない場所に貼り付けたり、再貼り付けや汎用の両面テープで貼り付けたりしない

視界不良や本機がはがれて、事故の原因となります。

車両メーカーが指定する禁止エリアや車両の操作を妨げる位置に、取り付けや配線をしない

カメラ装置などの動作を妨げるおそれがあり、交通事故の原因となります。車両メーカー、カーディーラーに注意事項を確認してから作業を行ってください。

エアバッグの動作を妨げないように、取り付け位置や角度の調整を行う

エアバッグが動作しなかったり、動作したエアバッグで製品や部品が飛ばされ死亡事故の原因になります。車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。

取付・取外し・配線は、専門技術者に依頼する

誤った取り付けや配線、取り外しを行うと、車に支障をきたす場合があります。また、お客様ご自身による取付・配線はケガの原因となりますので、販売店などにご依頼ください。

説明書に従って接続・取り付ける

説明書に従わずに接続・取り付けを行うと、火災や故障の原因となります。

コードの被覆がない部分はテープなどで絶縁する

ショートにより、火災や感電、故障の原因となります。

強制
コード類はしっかりと固定する

コードを固定する付属部品または市販部品を使用してください。ステアリングやセレクトレバー、ブレーキペダルなどに巻きつくと、運転操作を妨げ事故の原因となります。また、乳幼児の首などに巻きつく危険があります。

作業前はバッテリーの⊖端子を外す

＋と－経路のショートにより、火災、感電やケガの原因となります。

パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認し、干渉しないように取り付ける

穴あけドリル等がパイプ類、タンク、電気配線などと干渉すると、火災、故障の原因となります。

付属の部品を使用し、固定する

付属の部品以外を使用すると、機器内部の部品を損傷したり、しっかりと固定できずに外れて運転の妨げになり、事故やケガの原因となります。

取り付けと配線が終わったら、車の電装品が正常に動作するか確認する

正常に動作しない状態で使用すると、火災や感電、交通事故の原因となります。

車体やネジ部分、シートレールなどの可動部にコードを挟み込まないように配線する

断線やショートにより、火災や感電、故障の原因となります。

取り付け場所の汚れ(ごみ、ほこり、油)などを取り除き、しっかりと取り付ける

走行中に外れ、交通事故やケガの原因となります。乗車時に取り付け状態(接着やねじのゆるみなど)を点検してください。

注意

ヒーターの吹き出し口の近くに設置しない

製品の通風口、放熱板を塞ぐ場所には設置しない

熱風が直接当たったり、放熱が不十分となり、内部温度が上昇し、火災や事故の原因となります。

本機を不安定なところに取り付けない

落下などによる事故やケガ、故障の原因となります。

禁止
コード類は途中で切断しない

コード類にはヒューズがついている場合があるため、保護回路が働かなくなり、火災の原因となります。

コード類の配線は、車体の高温部・金属部・可動部に接触させない

断線やショートによる火災や感電の原因となります。

禁止
水のかかるところや結露、ほこり、油煙の多いところに取り付けけない

発煙や発火、故障の原因となります。

使用方法

警告

禁止
本機はリチウム金属電池を内蔵しています

- ・液体で濡らさない
- ・分解しない
- ・指定以外の方法で充電しない
- ・火の中へ投入、加熱をしない

発熱・発火・発煙・破裂の原因となります。

内蔵電池に強い衝撃を加えない

変形、保護機構が破損する可能性があり、発熱、破裂、発火の原因となります。

画面だけを見ながらの運転はしない

必ず目視による安全確認を行いながら運転してください。距離感の違いとカメラの死角により人や物にぶつかるおそれがあり、思わぬ事故の原因となります。

大きな音量で使用しない

警告音など車外の音が聞こえない状態で運転すると、交通事故の原因となります。

電池・ネジなどの小物部品は乳幼児の手の届くところに置かない

誤って飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

液体で濡らさない

発煙、発火、感電の原因となります。

禁止
液漏れした電池には直接触らない

ケガや周囲を汚染する原因となります。万が一皮膚や衣服に付着した時は、きれいな水で洗い流してください。目に入った時は、きれいな水で洗ったあと、ただちに医師に相談してください。

禁止
画面が映らない、音が出ない、音声が割れる、歪むなどの異常・故障状態で使用しない

思わぬ事故や火災、感電の原因となります。

強制
本機の内蔵電池を廃棄するときは、次のことを守る

「リサイクルご協力のお願い」をご覧ください。

実際の交通規制に従って走行する

ルート案内が実際の交通規制に反している場合があります。交通事故の原因となります。

ヒューズを交換するときは、規定容量(アンペア)のヒューズを使用し、専門業者に依頼する。

規定容量を超えるヒューズを使用すると、火災や故障の原因となります。ヒューズ交換は販売店などに依頼してください。

注意

禁止
本機は自動車用途以外で使用しない

発煙や発火、感電やケガの原因となります。

本機の上に重いものを乗せたり、乗ったりしない

落下させる、たたくなど、強い衝撃を与えない

故障や火災の原因となります。

キャッシュカードなどを本機に近づけない

磁気データが消去されることがあります。

本機をリアガラスと専用サンシェード等の間に挟み込まない

熱がこもり、本機の変形や故障の原因となることがあります。

運転者は運転中に画像を注視しない

前方不注意となり交通事故の原因となります。

注意
車両から乗り降りするときなどは、製品に頭部をぶつけないように注意する

ケガの原因となります。

注意
温度の上昇に注意する

夏の炎天下、直射日光を浴びている場合など、表面が高温になるので触る場合は十分注意して触ってください。車のダッシュボード同様に高温になります。

異常時の問い合わせ

警告

強制
万一異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ず販売店がサービス相談窓口にご相談する

そのまま使用すると、思わぬ事故や火災、感電の原因となります。

保証書とアフターサービス

保証書

この製品には保証書が添付されております。所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

修理について

本機は出張修理は承っておりません。引き取り修理サービスをご利用ください。(お車から取り外していただいた状態での引き取りとなります。)

修理時に、録画された画像データ等が消去される場合があります。データについての保証はご容赦ください。

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談は NP サポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

本書の見かた

| 表記 | 意味 |
|---|---|
|  | 取り扱いで注意していただきたいことや、本機の性能を維持するうえで注意していただきたいことについて、説明しています。 |
| メモ | 操作する上でのヒントや、機能に関する補足について説明しています。 |
| → [○○○○] | 参照していただきたい箇所や設定項目を表します。 |

- 本書で使っているイラストは、実際の製品と異なることがあります。
- 実際の製品(専用アプリ含む)は、性能・機能改善のため、予告なく変更することがあります。
- 本書では、microSDHC™ メモリーカードおよび microSDXC™ メモリーカードを、便宜上「microSD カード」と表記しています。

使用上のご注意

⚠ 本機取り扱いに関するご注意

- 運転者は走行中に再生操作や設定操作などしないでください。前方不注意となり交通事故の原因となります。必ず安全な場所に停車してから操作してください。
- ドライブレコーダーの各機能は、設定・設置状況・microSD カードの状態・走行環境(路面状況など)の影響により、正しく作動しない場合があります。
- リアトレイ上に明るい色のものを置くと、リアガラスに反射してカメラ映像に映り込む場合があります。リアトレイ上には明るい色のものを置かないでください。
- 本機は事故の証拠として、効力を保証するものではありません。
- 本機は全ての状況において映像の記録を保証するものではありません。
- 本機で撮影できる範囲(→「仕様」)には限界があります。予め記録される映像で確認の上ご使用ください。
- 60℃以上の高温または-10℃以下の低温、および湿度の高い場所では本機を使用しないでください。
- 本機で撮影した映像を取り扱う際は、被写体のプライバシーなどを侵害しないよう十分にご配慮ください。また、お客様の責任でお取り扱いください。本機で撮影した映像には、車両ナンバーなどの個人情報が含まれる場合があります。
- 天候や時間帯等の周囲の状況によっては、車両前方の状況を正しく認識できない場合があります。
- LED 式信号機や道路上の街灯などを撮影すると、信号機や街灯が点滅しているように撮影されたり、ちらついたりする場合があります。また、色が識別できない場合があります。これらの場合については弊社は一切の責任を負いません。
- 本機は G センサー(加速度センサー)で衝撃(加速度)を検知して事故発生前後の映像を記録しますが、全ての状況において映像の記録を保証するものではありません。

- 購入直後など十分に保持用コンデンサに充電されていない状態で、車のエンジンをオフして本機への電源供給が止まった場合、撮影時間が短くなったり、撮影できないことがあります。
- 電源供給時には必ず付属の電源ケーブルを使用してください。
- 弊社では、破損したファイルや消去したファイルの復元サービスは行っておりません。
- 各ファイル保存領域の空き容量が足りなくなると、上書き保存されますのでご注意ください。残しておきたい大切な録画ファイルがある場合は、バックアップすることをお勧めします。→「撮影した録画ファイルのバックアップ」
- 録画ファイルはお手持ちのパソコンでも再生できます。ただし、パソコンの性能によっては、映像の再生がコマ落ちしたり止まったりすることがあります。
- カーナビゲーションなど GPS を使用する機器を本機の近くでお使いの場合、電波障害の影響で、一時的に GPS 衛星の電波を受信できなくなることがあります。また、周辺機器の機能にも何らかの影響を及ぼす可能性があります。
- レンズ部を手で触らないでください。触ってしまった場合は、柔らかい布で拭いてください。
- バックアップ用リチウム金属電池は、通常お客様が交換する必要はありません。データ等が壊れる恐れがありますので、故障時等の交換は、販売店か修理受付窓口にご相談ください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示に従って処理してください。

⚠ microSD™ カードの取り扱いに関するご注意

- 本機は、microSDHC/SDXC カード(16GB～128GB、FAT32、Class10)に対応しています。全ての microSD カードの動作を保証するものではありません。
- パイオニア製 microSDHC/SDXC メモリーカード(別売品)の使用を推奨します。詳細は <https://jpn.pioneer/ja/carrozzeria/> より製品ページをご覧ください。
- microSD カードは本機でフォーマットしてご使用ください。また、カード内にパソコンなどで他のデータを入れずにご使用ください。

- microSD カードへのアクセス中は、microSD カードを抜かないでください。ファイルやカード自体が破損する恐れがあります。
- microSD カードは消耗品です。普通に使用していても正常に書き込みや消去などの動作をしなくなる場合があります。定期的に新品への交換を推奨いたします。長期間使用すると、不良セクタの多発などにより正常に記録できなくなる場合や、microSD カードがエラーになり使用できなくなる場合があります。
- **microSD カードの寿命は保証対象外となります。**
- microSD カードの消耗に起因する故障または損傷については、弊社は一切の責任を負いません。
- お持ちのパソコンで認識している microSD カードが、まれに本機で認識しない場合があります。この場合、microSD カードの不具合によっては、本機のフォーマット機能でフォーマットすることにより認識する場合があります。→「本機の操作方法」または「ドライブレコーダーの設定」-「SD カードフォーマット」
- 本機に記録された保護ファイルも含めた全てのファイルが消失します。フォーマットの際は、必ず microSD カードファイルのバックアップを作成してから行ってください。→「撮影した録画ファイルのバックアップ」
- フォーマット作業による microSD カードの不具合修復を弊社が保証するものではありません。また、本作業により microSD カードのファイル消失並びに、その他損害が発生した場合は、弊社として責任を負えません。お客様の判断・責任のもとでフォーマット作業は実行してください。

⚠ 電波に関するご注意

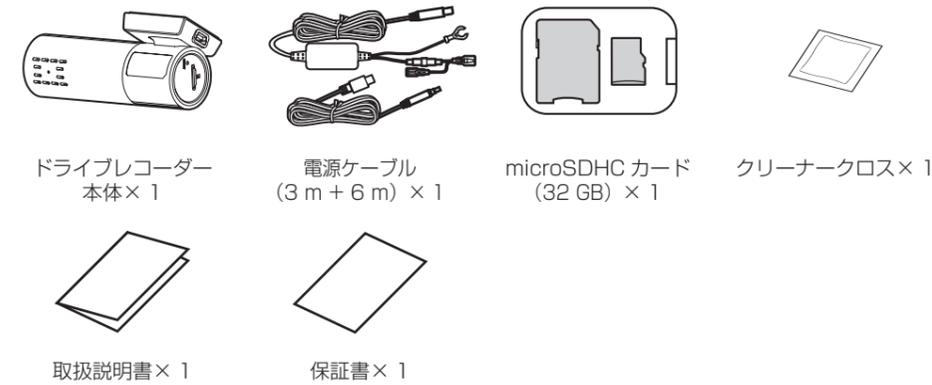
- 本機は電波法に基づく省電力データシステム無線局設備として、技術基準適合証明を受けています。
- 従って、本機を使用するときには無線局の免許は必要ありません。また、本機は日本国内のみで使用できます。
- 下記の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- ・ 分解 / 改造する。
- ・ 本機に貼ってある証明シールをはがす。
- 本機の無線機能は、2.4 GHz の周波数帯の電波を利用しています。この周波数帯の電波はいろいろな機器(電子レンジ、無線 LAN 機器など)が使用しているため、電波の干渉により無線機能の音声が届かなくなったりすることがあります。また、他の機器の動作や性能に影響を及ぼすことがあります。本機は電波干渉の影響を受けにくい方式ですが、下記の内容に注意してください。
- ・ 無線 LAN 機器を利用した AV 機器、防犯機器などを使用している環境で、本機の無線機能を使うと、音声が届かなくなったりすることがあります。
- その他、下記の機器でも、2.4 GHz の周波数帯の電波を使用しているものがあります。これらの機器の周辺では、音が途切れたり、使えなくなることがあります。また、相手の機器の動作に影響を及ぼすことがあります。
- ・ 火災報知器、ワイヤレス AV 機器(テレビ、ビデオ、コンピューターなど)
- ・ 工場や倉庫などの物流管理システム、鉄道車両や緊急車両の識別システム
- ・ マイクロ波治療器、ゲーム機のワイヤレスコントローラー
- ・ 自動ドア、万引き防止システム(書店、CD ショップなど)
- ・ 自動制御機器・その他、Bluetooth® 対応機器や VICS(道路交通網システム)
- ・ アマチュア無線局など

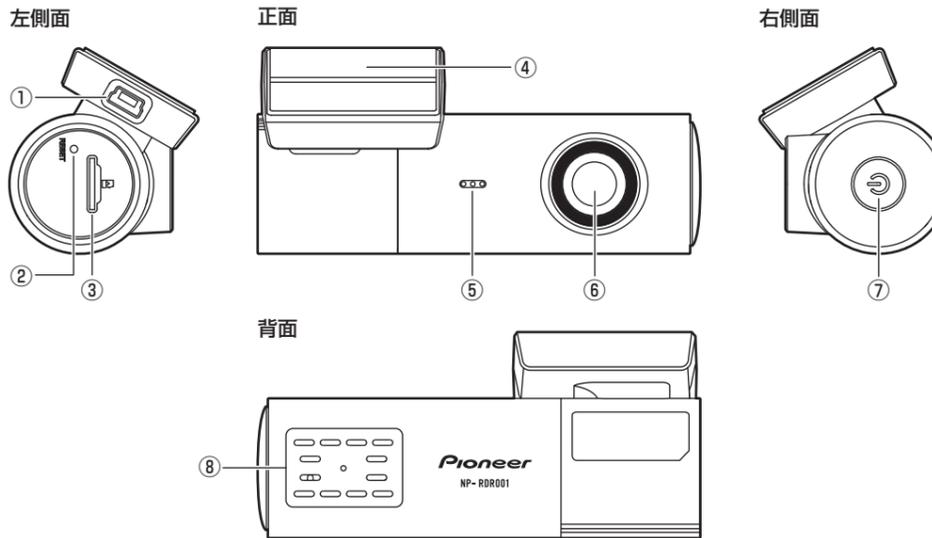


- ① 2.4 GHz 帯を使用する無線設備を表します。
- ② DS-SS 方式および OFDM 方式を表します。
- ③ 想定される干渉距離(約 20 m)を表します。

付属品を確認する



各部の名称



- ① 電源ポート
- ② リセットボタン
- ③ microSD カードスロット
- ④ 取付ブラケット
- ⑤ スピーカー
- ⑥ レンズ
- ⑦ 電源ボタン
- ⑧ マイク

取り付けの前に知ってほしいこと

警告

- エアバッグ装着車に取り付ける場合は、エアバッグのカバー部分および作動時の妨げになるような場所には絶対に取り付けしないでください。エアバッグが正常に動作しなかったり、動作したエアバッグで本機が飛ばされ、事故やけがの原因となります。

注意

- エアバッグ装着車に取り付ける場合は、車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。エアバッグが誤動作する原因となることがあります。
- 必ず付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると故障する恐れがあります。
- 必ず車両の備品および運転に支障のない場所に本機を取り付けてください。

取り付け上のご注意

- 保安基準*に適合させるため、本書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。
*保安基準とは、道路運送車両の保安基準第29条及び細目を定める告示第195条をいいます。
- 本機は、ガラス取り付け専用です。ガラス以外や車室外には取り付けしないでください。
- 本機をリアガラスに取り付けるにあたり、以下の点にご注意ください。
ー熱線がある場合は、熱線避けて取り付け。

取り付けのポイント

取り付け、固定する前に

- まず仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認してから、取り付けを行ってください。正常に動作しない場合は、接続に間違いがないか、もう一度チェックしてください。

- ーリアワイパーがある場合は、ワイパーの拭き取り範囲に入るように取り付け（雨天時の水滴、ガラスの汚れにより映像が見づらくなるため）。
- ーハイマウントストップランプからできるだけ離して取り付け。

- 車種によって、推奨位置に取り付けられないことがあります。詳しくは、販売店にご相談ください。
- 本機を塞いだり、レンズを汚したりしないでください。
- レンズの近くに反射物を置かないでください。
- 本機は、落としたり、レンズ部分には触れないよう、取り扱いには十分ご注意ください。
- 自動車のガラスにコーティング剤または特殊加工が施されている場合は、録画品質に影響が出る可能性があります。
- 自動車のガラスに特殊加工が施されている場合は、GPSが受信できない可能性があります。
- 作業場所は、空気中にゴミ、ホコリなどがない場所を選んでください。
- 気温が低いときやガラスがくもっている場合は、接着力の低下を防ぐため、車内ヒーターやデフロスタースイッチをONにしてウィンドウを暖めておいてください。

両面テープは、一度貼り付けた後に剥がすと粘着力が弱くなるため貼り直しできません。必ず本機を仮留めし、ケーブルの引き回しなどを十分に検討してから貼り付けてください。

両面テープを貼り付ける前に

- 両面テープを貼り付けるところは、汚れをよく拭きとってください。

角度調整を行う前に

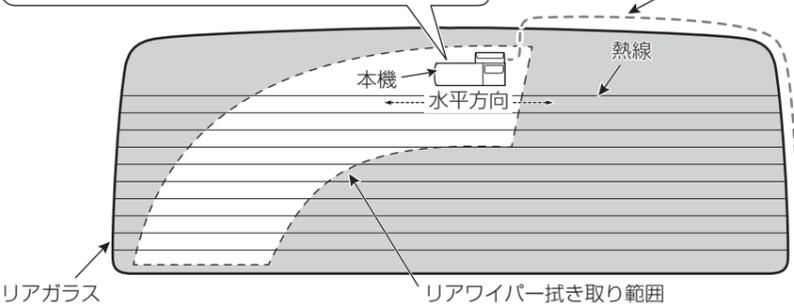
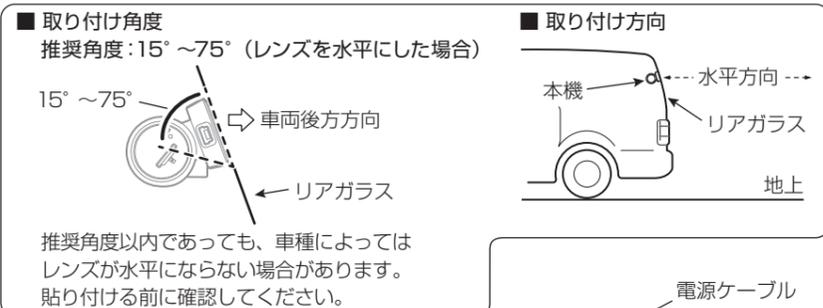
- 本機の取付角度調整は、iPhone または Android にインストールした専用アプリに映像を表示して行います。あらかじめ、専用アプリの利用準備を行ってください。→「専用アプリについて」

取り付け

リアガラス取り付け推奨位置

以下の条件を全て満たす車両および位置への取り付けを推奨します。

- 本機のレンズ部分がワイパーの拭き取り範囲内に入る位置
- 本機が後方および左右に対して水平方向を向く位置
- 本機のレンズ部分および両面テープが熱線と重ならない位置
- ケーブルが無理なく引き回せる位置
- 車両純正のデジタルインナーミラーのカメラに映り込まない位置

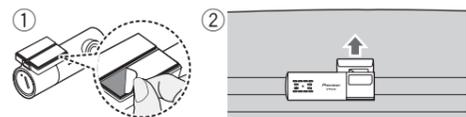


1 付属のクリーンクロスで取り付け部分の汚れ・油などを取り除きます



2 本機を取り付けます

- ①: 取付ブラケットの両面テープはくり紙をはがします。
- ②: 正面（レンズ側）を車外に向けて、「リアガラス取り付け推奨位置」の条件に従ってしっかりと押し付けてください。



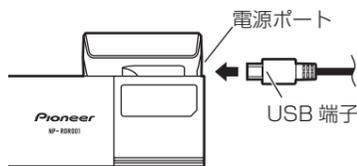
注意

- ガラスの表面が乾いてから貼ってください。
- 本体をしっかりと押し付けてください。
- 取付ブラケットの両面テープは非常に強い粘着力を持っており、一度貼り付けると貼り直しは困難なため、十分ご注意ください。
- 粘着テープの取付強度を確保するため、取付後 24 時間以上放置してから使用してください。

はがれないようにしっかり取り付ける

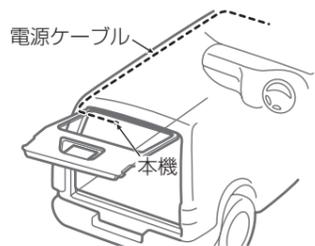
- 正しく取り付けられていないと、走行中にはがれて事故の原因になります。ときどき点検してください。

3 本機の電源ポートに、付属の電源ケーブルの USB 端子を接続します



4 電源ケーブルを助手席側に引き回します

配線例



注意

- 電源ケーブルの配線時は、ケーブルをドアに挟みこまないようご注意ください。

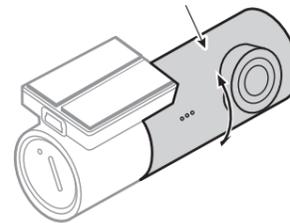
5 電源ケーブルを接続します

→「電源ケーブルの接続」

6 車のエンジンをかけます

7 車外の映像が適切に表示されるようにレンズの角度を調整します

この部分を回して調整します。

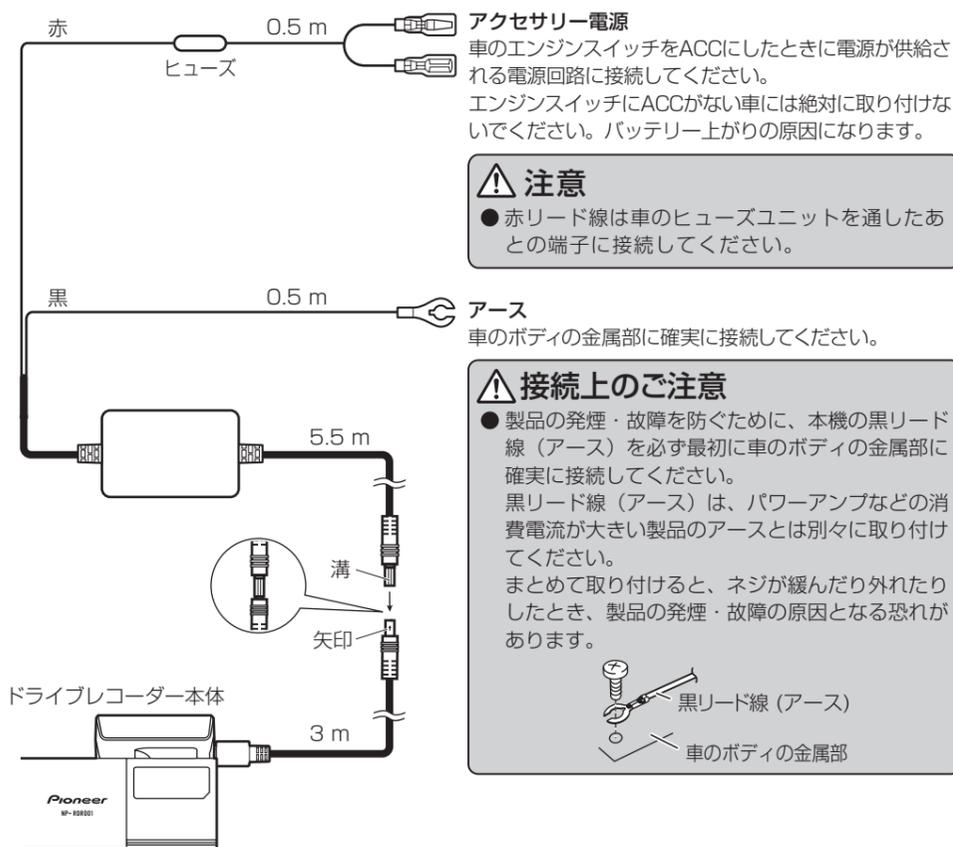


メモ

- 専用アプリを使って車外の映像を確認してください。→「専用アプリについて」
- 角度調整の操作はゆっくり行ってください。
- お買い上げ時は、保護フィルムが貼られています。はがして使用してください。

電源ケーブルの接続

ー電源ケーブルの接続は、必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してくださいー



アクセサリ電源
車のエンジンスイッチをACCにしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。エンジンスイッチにACCがない車には絶対に取り付けしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

注意

- 赤リード線は車のヒューズユニットを通したあとの端子に接続してください。

アース

車のボディの金属部に確実に接続してください。

接続上のご注意

- 製品の発煙・故障を防ぐために、本機の黒リード線（アース）を必ず最初に車のボディの金属部に確実に接続してください。黒リード線（アース）は、パワーアンプなどの消費電流が大きい製品のアースとは別々に取り付けてください。まとめて取り付けると、ネジが緩んだり外れたりしたとき、製品の発煙・故障の原因となる恐れがあります。



電源ケーブル同士を接続する際は、図で示すコネクタの溝と矢印の位置を合わせてからしっかりと奥まで押し込んで、確実に接続してください。スムーズに入らない場合は、コネクタの溝と矢印の位置を確認してください。

注意

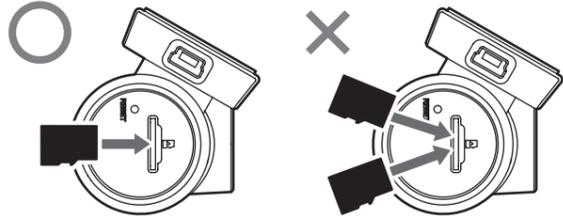
- 無理に挿入すると、故障の原因となる場合があります。

microSD カードの入れかた・取り出しかた

microSD カードを出し入れする際は、必ず本機の電源をオフにしてください。
→「本機の電源について」
→「本機の方法」

microSD カードを挿入する

microSD カードの上端を持ち、下図の向きでゆっくりと“カチッ”と音がするまで microSD カードスロットに挿入します。

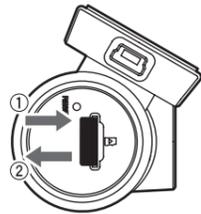


⚠注意

- microSD カードを斜めに挿入しないでください。破損の原因になります。

microSD カードを取り出す

microSD カードの上端をゆっくりと“カチッ”と音がするまで内側へ押し (①)、ロックを解除してから取り出します (②)。



⚠注意

- ロックを解除してすぐに指を離すと、microSD カードが飛び出す可能性がありますのでご注意ください。
- 本機の電源をオフにした直後は、microSD カードが熱くなっている場合がありますのでご注意ください。
- 正しく抜かれない場合 microSD カードまたはデータが破損する原因になります。

撮影した録画ファイルのバックアップ

必ず安全な場所に停車してパーキングブレーキをかけてから操作してください。

各ファイル保存領域の空き容量が少ない場合は古い録画ファイルから削除されます。残しておきたい大切な録画ファイルがある場合は、次の方法でバックアップすることをお勧めします。

メモ

- 事前に予備の microSD カードを用意してください。
- 専用アプリを介して、スマートフォンの内蔵メモリーに保存することもできます。

1 microSD カードを差し換えます

電源ボタンを 2 秒以上押して本機の電源をオフしてから microSD カードを差し換えてください。

2 パソコンに録画ファイルをコピーします

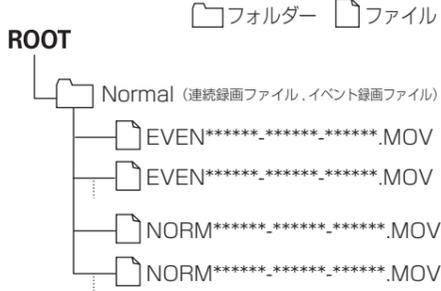
必要に応じて SD™カードアダプターを使用し、microSD カードをパソコンへ挿入します。バックアップしたい録画ファイルをパソコン内の適切な場所へコピーしてください。

メモ

- 録画時間が短くなる原因となるため録画ファイルの移動や削除は行わないでください。

フォルダーやファイルの構成について

microSD カード内のフォルダーやファイルの構成は下図の通りです。



メモ

- *****_*****_*****には、年月日、時分秒、管理番号が自動的に付与されます。
- 「Normal」フォルダー内に録画ファイルと異なるファイル（拡張子が .THM のファイル）が保存されています。これは、録画される領域を確保するために必要なファイルです。絶対に削除しないでください。

ドライブレコーダーの使いかた

必ず安全な場所に停車してパーキングブレーキをかけてから操作してください。

本機の電源について

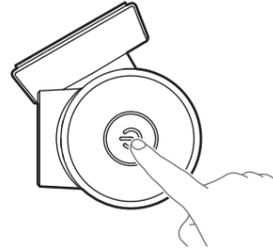
本機は、車のエンジンをオン (ACC ON) にすると起動し、自動的に録画を開始します。(連続録画機能)

本機を使用する前に

本機にはじめて挿入する microSD カードは、電源ボタンを 3 回押すか設定メニューでフォーマットしてから使用してください。
→「本機の方法」
→「ドライブレコーダーの設定」-「SD カードフォーマット」

本機の方法

本機は、電源ボタンの操作方法によって、異なる機能が動作します。



| 操作方法 | 動作内容 |
|---------|---|
| 2 秒以上押す | 車のエンジンがオン (ACC ON) のときは本機の電源を手動でオン/オフすることができます。 |
| 1 回押す | Wi-Fi をオン/オフします。 |
| 3 回押す | microSD カードをフォーマットします。 |
| 5 回押す | 本機を工場出荷時の状態にします。 |

連続録画機能について

本機が起動すると自動的に録画を開始します。録画した映像は 1 分間単位 (工場出荷状態) で 1 ファイルとして「Normal」フォルダーに保存され、microSD カードの容量が無くなると、古い録画ファイルから上書きされます。

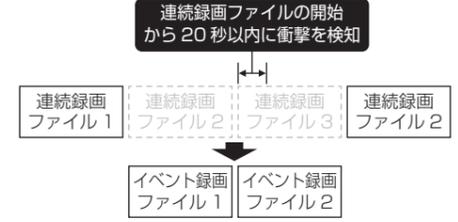
メモ

- 連続録画時間は変更することができます。→「ドライブレコーダーの設定」-「連続録画」
- 録画時間は状況によって変更になる場合があります。
- 下記の場合に連続録画を停止します。
 - イベント録画中の場合
 - 電源供給が停止された場合
 - microSD カードに関するエラーが発生した場合
 - 本機にエラーが発生した場合
 - 本機に挿入された microSD カード内の録画ファイル一覧を表示した場合 (一覧表示を終了し、本機が録画可能な状態になると連続録画を再開します。)

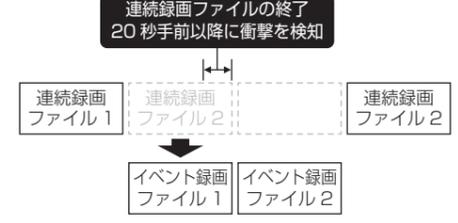
イベント録画機能について

他の車との接触事故が発生した場合など、本機が衝撃を検知した時点から前 20 秒間、後 20 秒間を含めた形で自動的にイベント録画ファイルとして「Normal」フォルダーに保存されます。衝撃を検知したタイミングにより、ケース 1 ~ 3 のいずれかのパターンで保存されます。イベント録画ファイルの長さは、連続録画で設定された時間と同じ長さです。→「ドライブレコーダーの設定」-「連続録画」

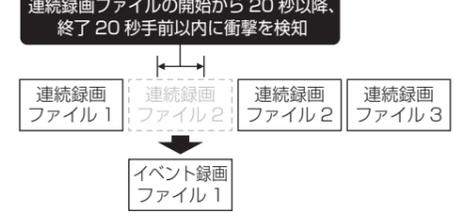
ケース 1



ケース 2



ケース 3



メモ

- 衝撃を検知する感度は変更することができます。→「ドライブレコーダーの設定」-「衝撃検知感度」
- 録画時間は状況によって変更になる場合があります。

撮影した録画ファイルを再生する

撮影した録画ファイルは、専用アプリの画面で確認することができます。→「専用アプリについて」

ドライブレコーダーの設定

必ず安全な場所に停車してパーキングブレーキをかけてから操作してください。

本機の設定は専用アプリを操作して行います。→「[専用アプリについて](#)」

設定できる機能や確認できる各種情報は下表のとおりです。

太字：工場出荷時の設定値です。

| 設定項目 | 設定内容 | 設定値 |
|---------------------|---|------------------------|
| マイク | 動画撮影中に本機周辺の音声も記録する／しないが設定できます。 | ON /OFF |
| 連続録画*1 | 連続録画機能の1ファイルあたりの録画時間を設定できます。 | 1分 / 3分 / 5分 |
| 衝撃検知感度 | イベント録画の感度が設定できます。 | |
| 音量 | エラー通知（ビープ音）の音量が設定できます。OFFに設定することもできます。 | OFF/ 低 / 中 / 高 |
| 露出補正 時間調整 | 動画撮影時の露出を設定できます。 時刻を手動で設定できます。 | - 2 ~ + 2 (0) |
| SDカードフォーマット | microSDカード内のすべてのファイルを削除できます。*2 | |
| Wi-Fi設定 | 本機のSSID名称（アクセスポイント名称）とパスワードを確認、変更できます。 変更後にパスワードを忘れてしまった場合は、本体を工場出荷状態に戻してください。 | - |
| 工場出荷状態に戻す | 設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。 | |
| ドライブレコーダーについて 情報 | ファームウェアのバージョン情報を確認できます。 ライセンス情報を確認できます。 | |
| EULA | 使用許諾を確認できます。 | |
| プライバシーポリシー | プライバシーポリシーを確認できます。 | |

※ 1：連続録画時間を変更するにはmicroSDカードのフォーマットが必要です。

※ 2：microSDカードに何らかの問題がある場合、エラー通知（ビープ音）が鳴ります。

録画時間の目安

microSDカードに保存される各動画の録画時間の目安です。

| microSDカード容量 | 連続録画 | イベント録画 |
|--------------|----------|---------|
| 32 GB | 約3時間20分 | 約1時間20分 |
| 128 GB | 約11時間40分 | 約5時間 |

メモ

- 録画時間は目安です。録画する風景等で異なります。

専用アプリについて

専用スマートフォンアプリ「リアドライブレコーダーアシスト」を使って、本機で撮影した映像を再生したり、本機の設定を行ったりすることができます。

また、本機のSSID名称（アクセスポイント名称）やパスワード、ファームウェアのバージョンや各種ライセンス情報などを確認することもできます。

本機を取り付ける際には専用アプリで映像の確認を行う必要があるため、あらかじめ専用アプリのダウンロードおよび本機とiPhoneまたはAndroid™とのWi-Fi接続を行ってください。

専用アプリをダウンロードする

iPhone：

<https://jpn.pioneer/ja/support/np/app/idr/>



スマートフォン（Android™）：

<https://jpn.pioneer/ja/support/np/app/adr/>



メモ

- NP1をお使いの場合、My NP1アプリのメニューから、「リアドライブレコーダーアシスト」を起動することもできます。詳しくはNP1のユーザーズガイドをご確認ください。
<https://jpn.pioneer/ja/support/manual/np/np-001/usersguide/>

本機と専用アプリをWi-Fi接続する

1 本機の電源をオンにします

2 iPhoneまたはAndroidを操作して、Wi-Fi接続先として本機を選びます

以降は専用アプリを起動し、画面表示に従い操作してください。

メモ

- 本機の初期SSIDとパスワードは、専用アプリの画面で確認できます。→「[ドライブレコーダーの設定](#)」－「[Wi-Fi設定](#)」
- 本機と同時に接続できるiPhoneまたはAndroidは1台のみとなります。2台目を接続した場合は、1台目の端末との接続が切断します。
- Androidをお使いの場合、本機とのWi-Fi接続中はAndroidのインターネット機能が使用できなくなる場合があります。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、下記内容をご確認ください。

| 症状 | 原因 | 対処 |
|--------------------------|---|---|
| 本機の動作がおかしくなった。 | 本機のマイコンが誤動作を起こしている。 | リセットボタンを押してください。 →「 各部の名称 」 |
| 記録されているはずの録画ファイルが見当たらない。 | microSDカード内の保存領域が不足なくなった場合、録画ファイルは古いものから順に上書き保存されています。 | 残しておきたい大切な録画ファイルがある場合は、バックアップすることをお勧めします。 →「 撮影した録画ファイルのバックアップ 」 |
| 録画ファイルを再生しても、音声が鳴らない。 | マイクの設定がOFFの可能性があり パソコンの再生ソフトが録画ファイルの音声コーデックに対応していない。 | マイクの設定を再確認してください。 →「 ドライブレコーダーの設定 」－「 マイク 」 ADPCM対応の再生ソフトを使用してください。 |
| エラー通知（ビープ音）が発生した。 | microSDカードのエラー、または本体内部のエラーの可能性があります。 | 配線や取り付けが正しく行われているか確認してください。 また、以下を試してください。 <ul style="list-style-type: none">● microSDカードをフォーマットして挿入し直す。 →「本機の方法」 →「ドライブレコーダーの設定」－「SDカードフォーマット」 →「microSDカードの入れかた・取り出したかた」● 新しいmicroSDカードに交換する。 →「microSDカードの入れかた・取り出したかた」● 電源を入れ直す。 →「本機の電源について」 →「本機の方法」● リセットボタンを押す。 →「各部の名称」● 工場出荷状態に戻す。 →「本機の方法」 →「ドライブレコーダーの設定」－「工場出荷状態に戻す」 工場出荷状態に戻すと、各設定（Wi-FiのSSIDおよびパスワード）はリセットされます。 |
| 「ピッ」という音がする。 | 連続録画が開始されたときに通知音「ピッ」が鳴ります。 | 本機の仕様であり、故障ではありません。 |
| 「ピッピッ」という音がする。 | 本機が衝撃を検知してイベント録画が開始されたときに通知音「ピッピッ」が鳴ります。 | 本機の仕様であり、故障ではありません。 |

故障かな?と思ったら (つづき)

| 症状 | 原因 | 対処 |
|--|--|--|
| 運転中に事故にあったが、録画ファイルが作られていない。 | <ul style="list-style-type: none">衝撃検知の感度が適切ではない可能性があります。 本機ではイベント録画も「Normal」フォルダーに保存されます。 | <ul style="list-style-type: none">検知するセンサーの感度を調整してください。 →「ドライブレコーダーの設定」-「衝撃検知感度」 「Normal」フォルダー内に保存されている録画ファイルの中で、ファイル名が「EVEN」から始まる録画ファイルがイベント録画ファイルです。 →「撮影した録画ファイルのバックアップ」-「フォルダーやファイルの構成について」 |
| 連続録画が開始されない。 | <ul style="list-style-type: none">本機に初めて挿入するmicroSDカードは仕様上、フォーマットしてから使用してください。 お使いのmicroSDカードを本機から抜いてパソコンに録画ファイルをコピーさせた後、再度本機にmicroSDカードを挿入すると連続録画が開始されない場合があります。(microSDカードのフォーマットを推奨する通知がされます。) | <ul style="list-style-type: none">電源ボタンを3回押すか、専用アプリの設定メニューからフォーマットしてください。 →「本機の操作方法」 →「ドライブレコーダーの設定」-「SDカードフォーマット」 必要なデータをバックアップしてから、microSDカードのフォーマットをしてください。 →「本機の操作方法」 →「ドライブレコーダーの設定」-「SDカードフォーマット」 |
| パソコンでmicroSDカード内を確認したときに、再生できないファイル(拡張子が.THMのファイル)がある。 | これらは仕様上、自動的に生成されるもので、録画される領域を確保するために必要なファイルです。 | 本機の仕様であり、故障ではありません。また、これらのファイルは削除しないでください。 |

仕様

| | |
|----------|--|
| 型番 | NP-RDR001 |
| 記録媒体 | microSDHC/microSDXCカード class10 (16 GB ~ 128 GB) |
| 撮像素子 | 約 200 万画素 (車載用高感度 CMOS センサー) |
| 記録画角 | 水平 105° 垂直 56° 対角 127° |
| F 値 | F2.1 |
| 録画モード | 1920 × 1080P |
| 画像補正技術 | WDR 機能 |
| GPS | 搭載 |
| Wi-Fi | 搭載 (iOS/Android 専用アプリ接続用) |
| G センサー | 3 軸 G センサー搭載 (3 段階レベル設定可能+ OFF) |
| 記録方式 | 連続録画 / イベント録画 |
| 録画ファイル構成 | 1 分 /3 分 /5 分 |
| 音声録音 | ON/OFF 可能 |
| フレームレート | 27.5 fps |
| 画像圧縮方式 | MOV (H.264) |
| 記録映像再生方法 | 専用スマートフォンアプリ (リアドライブレコーダーアシスト) |
| 電源電圧 | 12 V/24 V 対応 |
| 電源ケーブル | 9 m (6 m + 3 m) |
| 消費電力 | 約 3 W |
| 動作温度 | - 10 ℃ ~ + 60 ℃ |
| 外形寸法 | 95 × 30 × 35 (幅×高さ×奥行) ※本体のみ 95 × 44 × 35 (幅×高さ×奥行) ※取付寸法 |
| 本体質量 | 70 g (その他、付属品含まず) |
| 取付推奨角度 | 15° ~ 75° |

GPS について

- GPS 衛星 (人工衛星) から位置測定用の電波を受信して、現在地を測位するシステムが GPS (Global Positioning System：グローバルポジショニングシステム) です。
- GPS 衛星信号は、固体物質 (ガラスを除く) を通過することができません。次のような場所にいるときは、GPS 衛星の電波がさえぎられて受信できないことがあります。トンネルの中やビルの駐車場、2 層構造の高速道路の下、高層ビルの群集地帯、密集した樹木の間

リサイクルご協力をお願い

本品は小型家電リサイクル法の対象です。一般ごみとしての廃棄をしないでください。使用済の製品はお住いの自治体の指示に従って廃棄してください。使用済製品に含まれる貴重な資源の有効活用にご協力ください。

商標・著作権など

- microSDHC、microSDXC ロゴは SD-3C LLC. の商標です。



- Android、Google Play は Google LLC の商標です。
- Wi-Fi® は Wi-Fi Alliance® の登録商標です。
- Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。パイオニア株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。
- 「VICS」および「VICS WIDE」は、一般財団法人道路交通情報通信システムセンターの登録商標です。
- App Store は、米国およびその他の国で登録された Apple Inc. のサービスマークです。Apple、Apple のロゴは、米国およびその他の国で登録された Apple Inc. の商標です。
- iPhone は、米国、他の国々および地域で登録された Apple Inc. の商標です。日本における iPhone の商標は、アイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。
- IOS は米国その他の国における Cisco の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- 本機は、電波法に基づく工事設計認証を取得しています。 回 210-217166